

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価規準・基準
国語科	①国語の基本的な学力の育成と定着 ②生きる力としての読解力と文章表現力の養成	<ul style="list-style-type: none"> 毎週の小テストと課題により、家庭学習の習慣、基礎的な学力を定着させる。 教材を精選し、文章の表現の特色や読解の方略を示すことで、表現等に注意させながら、読解させる。 構成や要約文作成の段階で、グループディスカッションや、文章記述の時間をつくることで、ものごとを多角的な視点でとらえさせ、論理的な文章を書く能力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 週課題や小テストの勉強に取り組ませることで、学習習慣を定着させ、基本的な学力を身につけさせることができたか。 文章を読解する中で、論理的に思考し、表現する力の養成ができたか。 さまざまな教材を取り扱い、それらに関する話し合いにおいて、他の意見を聞くことで自らの考えを深め、それを発言・発表・文章として表現させることができたか。
地歴公民科	①生徒が地理・歴史・公民の学習内容に対して主体的・対話的に学習する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的・対話的に学習を進める形を作る。そのために、バズ学習やワールドカフェ、パワーポイントの活用など、様々な学習形態について研究をするとともに、場面に合わせて効果的に実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に考えるために必要な知識や基本事項を十分に理解させる指導ができたか。 生徒が主体的・対話的に学習を進めることが出来たかを、教員が客観的な基準で示すことができたか。
数学科	①数学の基本的な学力の育成と定着 ②学習指導要領に基づくカリキュラムと評価法の研究	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着のための習熟度別授業や内容の精選を行う。 課題と連動した確認テストを実施する。 授業を通して、カリキュラムに対し、3学年連続した有効な学習指導法・評価法等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の積極的に授業や課題への取り組む姿勢を育てることができたか。 確認テストや定期考査を通じて基本的内容を理解させることができたか。 課題学習の内容や各分野の学習法は適切であったか。 指導と評価の一体化が計画的に行われたか。
理科	①身近な自然現象に対して目を向けさせ、自主的に実験・観察を通して、科学的に問題解決する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 授業等で生徒自身が発見したさまざまな自然現象を取り上げる。 実験・観察の基本的操作を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業等でレポートまたは研究発表の機会を与え、その内容を評価する。
保健体育科	①授業規律、時間厳守の徹底 ②主体的・意欲的に取り組む授業の実践 ③安全面の配慮	<ul style="list-style-type: none"> 始業前集合を徹底する。 個々の能力や技量に応じたグループ分けや、練習計画を作成する。 課題学習をさらに充実させる。 ルール、マナーを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 速やかな更衣と移動、体育委員指示による学校体操開始を徹底することができたか。 自己の課題に対して主体的・意欲的に取り組み、日々の授業に生かすことができたか。 安全に留意してマナーを守り、授業展開ができたか。
芸術科	①生徒が自分の表現特性を自覚し、発想を持ち、試行錯誤の中から表現方法を模索して制作を進めるための指導方法の工夫(“学び”の工夫) ②科目間の系統性、関連性、段階性を重視した授業内容の工夫	<ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチや文章等の、造形活動の生成過程や内面を示す物の含まれた、ポートフォリオの作成と授業での活用の工夫 板書の工夫(授業のポイント、過程、到達点等を示すものを常に提示) 一斉指導時の効果的な発問 鑑賞学習の充実 校内、校外の展示と発表の工夫 制作過程を重視した評価の工夫 生徒との対話、記録物から、個々の良い部分(感性)を引き出し、より意識的、計画的な表現に導き出す工夫 教科書を活用した授業展開 各課題のポイント(造形要素)の確認、毎時の目標の明確化 科目間、学年間の情報交換と有機的連携、教科会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り、講評の中でポートフォリオが活用されているか。 板書が充実しているか。定期的に校内展示が差し替えられているか。 アイデアスケッチ、下絵等50%、完成作品50%の評価を目指すことができたか。 教科書の積極的活用がなされているか。 援助的指導がなされているか。指導が指示的になっていないか。 教員間の連携や情報交換を密にとることによって、全教員が効果的に機能しているか
英語科	①生徒個人の学力に応じた授業の実践 ②4技能5領域を意識した授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート、小テスト、課題を活用する。また内容によってはICTを積極的に活用する。 英語を用いて自分の意見を発表することや、相手とのやり取りや即興性を意識した言語活動を取り入れる。 パフォーマンステストを充実させ、ルーブリックによる明確な評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート、小テスト、課題、ICTを活用して、基本的内容を理解させることができたか。 パフォーマンステストを通して生徒の英語を使う能力を適切に評価することができたか。 効果的学習指導法を工夫できたか。授業進度は適切であったか。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価規準・基準
家庭科	①新学習指導要領に基づく評価方法の研究 ②本年度からの2年生のカリキュラム変更に伴う授業内容の継続研究 ③総合学科における「家庭科」科目の指導法の研究	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の実施に向けて、より良い新教育課程の評価方法を実践する。 2年生から選択科目「フードデザイン」4単位が始まり、元々選択科目としてある3年生「フードデザイン」につながる科目となるため、2年間分の授業内容を具体的検討していく。 2年生での「家庭基礎」、「フードデザイン」の学習を踏まえ、3年生の「フードデザイン」「保育原理」などの各分野のより応用的な知識と技術を習得させ、主体的に行動する力を育てる授業内容や授業方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査において、知識、思考判断などの力の定着をはかる考査内容の検討。 実習では、取り組み状況や作品の出来栄えにおいて、技術の定着・向上が図られているか。 新教育課程の学習目標や評価方法を検討できたか。 生徒の取り組み状況の把握と評価方法が適切であるか。
情報科	①最新の情報技術の科学的な理解 ②情報モラルの育成と個人情報保護の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術、問題解決学習、アルゴリズム、プログラミングについての指導方法の研究を行い、具体的事例を提示しながら授業を展開する。 インターネットを利用したサービス、ソーシャルメディアにおける利点や問題点を具体的に提示し解説する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術の基礎・応用分野について内容を理解し、コンピュータを適切に利用し問題を発見・解決するための考え方を身につけることができたか。 情報モラルを身につけ、インターネット上のトラブルや問題を主体的に判断し、解決できる能力を身につけることができたか。
工業科	①製図系科目について、基礎学力の育成 ②工業デザイン系科目について、基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 立体物を理解するための造形的ものの見方を養い、物作りのための図面作成、教科書を土台とした基礎基本の指導を徹底する。 色彩や構成についての美的原理について、感覚だけでなく科学的な観点からも学びを深める授業展開を目指し、教材を工夫、精選する。 スケッチブック・レポート等を活用し、構想を練る段階での発想を豊かにする指導を心がけるとともに、作品のコンセプトを生徒に自覚させるため、制作過程で思考を深められる手立てを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の積極的活用がなされているか。 用途に即した知識や技術を適切に指導して制作に臨ませることができたか。 立体物を作るための造形的ものの見方やルールを理解させることができたか。 設定した目標に向けて理解度や完成度を上げさせることができたか。 制作後の感想や制作意図についての言語表現やスケッチ表現、また作品展示や写真掲示を行うことで、生徒自身が制作を振り返り、美的原理や意匠について客観的に鑑賞することができたか。
商業科	①各系列に即した系統的・段階的な学習内容の研究 ②地域との連携、学校の魅力発信の研究	<ul style="list-style-type: none"> 各系列において、科目指導内容の選定と教材研究を実施し、教材開発を行う。 資格取得や作品制作・外部講師の活用・高大連携の授業など、生徒に様々な経験をさせ、コミュニケーション能力および情報発信力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各系列においての指導内容の選定と教材開発が適切に実施できたか。 主体的に資格取得へ取り組むことができたか。 画像や動画、ポスターなどの各種成果物の制作、地域連携に関わる活動を通しコミュニケーション能力や情報発信力が育成できたか。
第1学年	①基本的な生活習慣と規範意識の確立 ②生徒の進路観をはぐくみ、進路調べやその達成に向けた学習を充実させる。 ③クラス活動、また学年活動を充実させて集団意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 時間、ルール、マナーを守るとともに、自ら挨拶、清掃しようとする意識を育む。多様な考え方や文化を尊重できるような働きかけをしている。 担任面談や学年ガイダンスの充実、また進路講話や模試、産業社会と人間を活用して、進路について考える機会を増やす。学習や資格取得に向けた動機付けを図る。 グループワークや学年での活動を多く実施して、積極的に意見を話す態度や他者の意見を聞く姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「生活と学習の記録」を活用し、生活状況や学習状況が確立されているかを確認する。また多様な考え方や文化を大切にする態度をもっているか。 深まっていく進路観を基に、生徒が自ら学習する習慣を身につけ、自ら学ぼうと取り組むことができたか。 1人1人がLTや行事では主体的に他者と関わり、意見の共有がなされたか。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価規準・基準
第2学年	①選択科目の専門性を高めることと、「総合的な知」を高める学習をする。 ②基本的な生活習慣と中心学年としての規範意識の確立 ③クラス活動、また学年活動を充実させて集団意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望や選択科目を把握し、個々が引き上げたい専門科目については教科の枠を越えて、担任を中心に声掛けやアドバイスをしていく。そのために学年会などを活用して、生徒の授業の様子について、情報共有を活発に行う。また、「総合的な知」をテーマとして、選択科目のみならず1つ1つの授業で得られる知識を高めるように指導していく。 中心学年として、時間、ルール、マナーを守るとともに、自ら挨拶、清掃しようとする意識を育む。多様な考え方や文化を尊重できるような働きかけをしていく。 グループワークや学年での活動を多く実施して、積極的に意見を話す態度や他者の意見を聞く姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路について主体的に検討し、調べたりしているか。学習については、選択科目と必修科目のバランスが取れた勉強ができてきているか。 修学旅行をはじめとした、集団で行う行事で、規律あるふるまいができてきているか。また日常から多様な考え方や文化を大切にしている態度をもっているか。面談等を通して、生活状況や学習状況が確立されているかを確認する。 1人1人がLTや行事では主体的に他者と関わり、意見の共有がなされたか。
第3学年	①最高学年としての自覚の育成、高い規範意識に基づいた主体的な行動力の育成 ①授業・補習・模試の相互連携と発展的な学力の育成、個々の進路実現及び自己実現のサポート	<ul style="list-style-type: none"> 学年集会、学校行事、HR活動、部活動等を通して、高い規範意識を持って学校生活が送れるよう、教員間で連携して指導する。 生徒一人ひとりの状況を適切に把握し、教科担当や進路指導部と連携して進路希望に応じた学習指導や進路指導を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が規範意識を持ちながら、学校行事やHR活動に主体的に参加し、クラスや学年の一員としての自覚をもって協力的に活動することができたか。 面談や保護者会を通じて、生徒と保護者の意向を理解し、生徒一人ひとりの進路希望に応じた学習指導や進路指導を実践できたか。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ①科目「産業社会と人間」と「総合的な探究の時間」の内容の充実（外部連携の発展と探究学習の質の向上） ②基本的な生活習慣の確立状況及びSNSトラブル防止への啓発（欠席や遅刻の数、SNSトラブルを含む問題行動などの指導件数） ③授業での活動や学校祭など、他と協働して成し遂げることで人間関係を築く機会を提供し、生徒自身がリーダーシップを発揮したり、活動をサポートしたりする場面を意識させ、行動に結びつける取組（行事の達成度や完成度） ④各教科において外国人生徒の入り込み授業などを中心に、外国文化や社会、慣習などを互いに紹介するような活動を通じて、自国にしながら国際理解教育を日常的に推進する取組（取組教科・科目数、件数、継続性、発展性） ⑤学校の施設・設備等をはじめとする環境整備、日常起こり得る事故等への迅速な救急体制、事故対応（環境の整備状況、ヒヤリハットの共有と大事故への未然防止） ⑥授業における産学連携の取組実績（取組教科・科目数、件数、継続性、発展性） ⑦各教科新学習指導要領のもとでの学習活動の改善のための取組（各教科におけるICT活用の広がり状況、課題改善のためのカリキュラム・マネジメントの取組） 		